

福音の園だより

【第5号 二〇〇五年五月十日発行】

350-0016 埼玉県川越市木野目一八七八番地一

特定非営利活動法人 福音の園・埼玉 事務局

☎ 049-230-1111

Fax 049-230-1112

「家族の声」

「退院を待っています」と言われて

義母は、大正十二年生まれの八十一歳です。過去に軽い脳梗塞を起こしていることもあり、昨年の夏頃から急速に認知症が進み出しました。もともと、積極的に行動する方ではありませんでしたので、主治医からは、積極的に歩くようにとか、食事も好き嫌いなく食べるようにとの指導をいただき、家族もそれなりに対応をしておりました。しかし、認知症が進むにしたがって無気力になり、朝、起床をして食事のためにイスに座ると家族が何を言おうが、夜、就寝をするまでイスから立ち上がろうとしないことが多く、当時のケアマネージャーに相談したところ、「福音の園・川越」を紹介していただき、今年の一月に入所をさせていただきました。ところが、入所一週間弱で病院に入院をすることになってしまいましたので、認知症の症状は自宅にいたとき以上に悪化し、家内も、自分の母親がホームにはもう戻れないのではないかという思いを持っておりましたので、杉澤ホーム長さんから「ホームでも退院を待っています」というお話をいただいたときは、涙が流れて本当に感謝の気持ちでいっぱいであつたということをお話ししておりました。

退院し、ホームに戻らせていただいた後は、義父と家内は週二回、私は週一回訪問をさせていただいておりますが、訪問するたびに状態が改善され、のんびりとした義母の顔を見るたびに、本当に「福音の園・川越」に入所させていただいて良かったと家族で話しております。これもすべてホームのスタッフの皆さん、そして入所されているホームの皆さんの温かいお気持ちのおかげであることに感謝申し上げますとともに、義母の余生に幸多からん事を祈りたいと思います。

(K・I)

地区民生委員の声

つい嬉しくなって声をかけてしまい

川越市高齢福祉部会長 民生・児童委員 関 征司
グループホーム福音の園・川越に従事する皆様、日頃の地域福祉向上にご理解とご協力に感謝申し上げます。私は民生・児童委員として二度訪問させていただきました、感触として家族的で明るく楽しい雰囲気、感心いたしました。

また、入園時の基準は、何よりも安全、安心でなければならぬでしょう。その点も施設面においても、まずクリアしていると理解できます。さらにホーム長と介護者、地域住民の協力とボランティアの応援で地域福祉向上に心掛けている点、大変心強く感じます。先日、園の皆さんが九十川の土手を散歩し、さくら堤公園でニコニコ笑いながら談笑している姿を見見して、つい嬉しくなって声をかけてしまいました。今後こそ苦勞もあるかと思いますが、高齢者の気持ち大切に、入園して良かったと言われるようなグループホーム福音の園・川越を築いてくれるものと期待しております。私も時々訪問させていただきますので

今後ともお願い申し上げます。

毎日新聞社主権

「二〇〇五年 毎日介護賞」受賞をめざして

創意工夫と公共性に富んだ活動で介護に取り組む方々を励まし、ともに豊かな地域社会の建設をめざすことを目的に創設された「毎日介護賞」。全国の個人や団体からの推薦で選考され、その活動を広く紹介していくもの。目下、推薦者と打ち合わせ中。七月の応募締め切り後、選考委員による視察受け入れに向けてスタッフの向上に励んでいます。

選考結果は、十月中旬、毎日新聞紙上で発表予定。十月の「開園1周年記念」に花を添える受賞を夢見て取り組んでいます。皆様のお祈りを宜しくお願いいたします。

(ホーム長 杉澤 卓巳)

ホーム長 雑記

朝飯前の仕事ーケアプランの作成！

五月二十日、埼玉県介護事業所等の実地監査。二三日、NPO法人定期総会等。多忙な月を迎えて、ホームの畑仕事は出勤前の早朝二時間余り。朝飯前にひと仕事終え、野良仕事からもどってくる田舎の父を見習つてのことで苦にならず「楽農」。「ストレス過剰で、脳に過充電が起ったとき、園芸活動で大地にさわることに、文字通りストレスをアースすることができるといふ園芸療法の効用を実体験中。全身を動かしての畑仕事ではあっても頭の中は、利用者お一人ひとりのケアプラン策定やホーム運営のために集中。机上では浮かばないアイデアがここから生まれる。朝飯前のひと仕事は最も充実した時間。常時感謝不断喜び。